

## 南アフリカ為替週報

2022年1月27日 | みずほ銀行欧州資金部

〈過去1週間の動き〉

(1月20日～1月26日)

USD/ZAR: 15.0650～15.3950

ZAR/JPY: 7.39～7.55 (参照値)

過去1週間の南ア・ランド相場は、対ドル、対円共に、2ヵ月ぶりの高値圏において、方向感を欠いた上下動。特段の新規材料に乏しい中、南ア準備銀による追加利上げ期待がランド押し上げ要因と読まれ、ウクライナ東部の緊張など地政学的リスクの高まりが、逆に、ランド売り要因と受け止められた。とりわけ、24日、「米政府がウクライナの米大使館員の家族に退去命令を出した」「同国内の民間人にも退去を勧告した」などといった報が聞かれたことは、米株などの急落を誘うことで、ランドを含む新興市場全般に、リスク回避の文脈に乗る強い売り圧力を供給した。南ア固有の要因では、この間も続いたラマポーザ大統領とシスル観光相の丁々発止は興味深かったものの、ランドに与えた影響ははっきりしなかった。同観光相は、この間、南ア司法制度に対する批判的な発言を繰り返してきたが、20日、大統領府が「同観光相は一連の発言を撤回、謝罪した」と発表したところ、同観光相側はその旨(発言撤回と謝罪)を否定。両者の間の確執が表面化した。一連の経緯は、今年末(12月16～20日)に予定される与党アフリカ民族会議(ANC)党大会(党首選)において再選を目指すラマポーザ大統領と、対立派閥(革新的経済移行派閥/RET=ズマ前大統領派)からの対立候補の座を目指すシスル観光相の前哨戦と位置づけられた。他に、金融市場全般に影響する要因として、25/26日の米連銀公開市場委員会が注目を集めた。上述米株急落の背景には、ウクライナ東部を巡る地政学的リスクの高まりに加え、米連銀による積極的な金融引き締め(利上げ/量的引き締め)に対する警戒感の高まりも大きく影響したものと考えられた。

〈向こう1週間の見通し〉

(1月27日～2月2日)

USD/ZAR: 15.100～15.500

ZAR/JPY: 7.35～7.55

向こう1週間の南ア・ランド相場は、方向感を欠いた膠着の継続を予想。注目された米連銀公開市場委員会(26日)は、「3月利上げを意識している」「今後数回の会合でバランスシート縮小(の手法)について協議する」など、事前の予想通りの内容(パウエル議長発言)と言えた。通貨市場はドル全面高に反応したものの、特段ドルを押し上げるような新規材料があったとは思えない。敢えて挙げるなら、(年内)毎回の同委員会(3月含め7会合)での利上げの可能性を否定しなかった点に新味を見出すことはできたかもしれないが、あくまでも可能性の話でしかない。ドルが一方的な堅調地合いを目先維持する可能性は高くないように思われる。27日の南ア準備銀金融政策委員会に関しては、市場の予想が+25b.p.の利上げで概ね一致しており、その限りであればランドへの影響は限定的となろう。ただ、金利先渡(FRA)市場(現時点で、向こう12ヵ月間で+220b.p.程度の利上げを織り込み済み)とエコノミスト(という肩書を持った人たち)のコンセンサス(年内に+25b.p.×5回程度の利上げを予想)とには引き続き大きな乖離があり、27日の票読みによっては、ランドが上下に反応を示す可能性も考えられる。前回(11月18日)の+25b.p.利上げは3対2の僅差の決定だったが、これが今回も3対2であれば、追加利上げ期待は少なからず萎む可能性が考えられる。逆に、全会一致(の利上げ決定)となれば、利上げ期待の高まりがランドを押し上げられるような展開も想定できるだろう。もう一点、31日発表の南ア12月貿易収支にも相応の注意は払っておきたい。先月発表された11月の当該指標が、市場予想を大幅に上振れたことが(28日)、新興市場通貨全般が下押しする局面で、ランドの高止まりに寄与したと考えられたからだ。こちらは、先月とは逆に、弱めの数字が失望を買い、ランド売り方向の値幅を出す可能性の方が警戒されるように思われる。

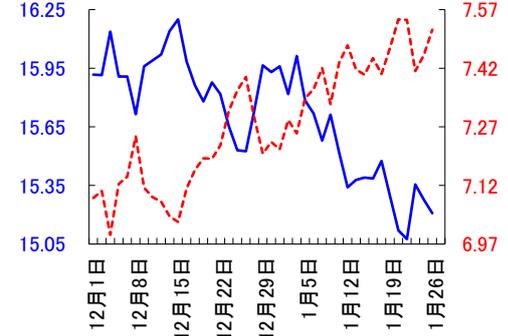
〈向こう1週間に発表予定の主要経済指標等〉

月日	GMT	指標	期間	発表	予想*	前回
1/27		南ア準備銀政策金利			4.00%	3.75%
1/28	12:00	財政収支(ZAR)	12月		+42.5bn	-21.3bn
1/31	6:00	民間部門信用(前年比)	12月		+2.55%	+2.46%
	12:00	貿易収支(ZAR)	12月		+31.0bn	+35.8bn

(\*予想はブルームバーグ社予想中心値)

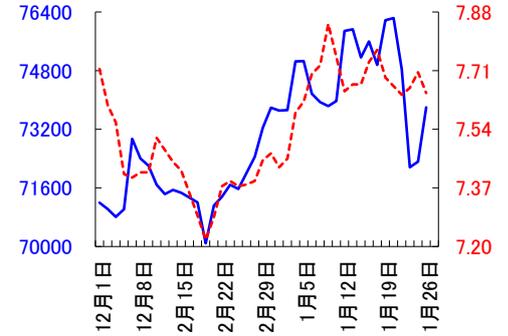
為替相場の推移(資料:ロイター)

実線/左軸: 対米ドル、点線/右軸: 対円



株式/長期金利の推移(資料:ブルームバーグ)

実線/左軸: JSE全株、点線/右軸: 10年スワップ金利



## 南アフリカ関係主要経済指標

政策金利(レポ金利)		3.75%
長期金利(10年スワップ)	1月26日	7.645%
株価指数(JSE全株)	1月26日	73797.33
成長率(GDP/前年比)	Q3	+2.9%
経常収支(ZAR)	Q3	+226bn
失業率	Q3	34.9%
消費者物価(前年比)	12月	+5.9%
小売売上高(前年比)	11月	+3.3%
製造業生産(前年比)	11月	-0.7%
鉱業生産(前年比)	11月	+5.2%
貿易収支(ZAR)	11月	+35.8bn
金価格(ロンドン 17:00)	1月26日	1831.85

当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。ここに記載された内容は事前連絡なしに変更されることもあります。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願い申し上げます。また、当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず無断で引用または複製することを禁じます。